

039

スポーツを通じて楽しく学ぶ体験型防災 学習プログラム「防災スポーツ」

取組主体

株式会社シंक

従業員数

2人

想定災害

地震等

実施地域

全国

- 「楽しんで、競い合って、身体で覚える」ことをテーマに、災害時の自助・共助、災害後の復旧・復興の際に想定されるシーンをスポーツ競技として開発。スポーツを通じて、もしもの時に生き抜く力を育む。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

災害時に必要となる判断力と体力・スピードを、スポーツを通じて身に付ける

- スポーツに関する企画・コンサルティング事業を展開する株式会社シंकは、火災時の避難や水難時の救助方法、負傷者の搬送、迅速な消火活動といった災害時に役立つ様々な防災の知識と技を、競技を通して、実際に体験しながら楽しく学ぶことができる体験型防災学習プログラムの開発を行った。
- 同社の代表は、自身が阪神・淡路大震災で被災した際に、本棚が倒れて本に埋まった家族を助けたり、避難所でプールの水をトイレに運んだりした経験から、災害時には知識に基づく判断力に加え、とっさに行動できる体力・スピードが重要であると感じていた。これらはスポーツを通じて高めることのできる要素でもあったと感じたことから、自分を守り、家族を守るために、日常からスポーツを通して災害に備え、防災を「自分事」にする「防災スポーツ」の活動を広めていきたいと考えた。
- 「防災スポーツ」は「防リーグ（体験）」と「防トレ（対策）」を中心に構成されている。防リーグ及び防トレは、「防災の日常化」をテーマに活動している NPO 法人プラス・アーツ監修の下、震災時の状況、被災者から学んだ震災の教訓を組み込んだ内容となっており、防リーグで災害時の知恵と技を学び、防トレで日常での対策を行うことで、子どもから大人まで、スポーツを通じて防災を身近に感じ、災害に備える環境を創ることを目指している。
- 防リーグは、「防災の知恵と技を身体で覚える」「タイムトライアルで安全により速くを競う」「チーム戦で協力・コミュニケーションを学ぶ」ことをポイントにしており、防災にスポーツの要素を加えることで、誰でも親しみやすく関心を持てる内容となっている。
- 防リーグで防災意識を高めた後は、イラストを中心とした子どもでも取り組みやすい防トレで、家族内での連絡方法や家具の転倒防止等、日常的な防災対策を学ぶ。



子どもから大人まで、一緒に楽しみながら防災力を高める

防リーグプログラム

災害前、備える・覚える



知識+ラン練習
災害時に必要となる知識と体力を身につける。ランニングを通じて体力を鍛える。

災害時、自分の身を守る



キャタピラエスケープ
火災時の避難や地震時の避難に役立つ、低姿勢での移動方法を学ぶ。

災害時、周りを助ける



レスキュータイムアタック
災害時に必要な道具（ヘルメット、ラジオ、水筒など）を身につけて、安全に避難する練習をする。

災害後（復旧、復興）



キャットサイクルレース
土砂や瓦礫の片付けや、避難所の運営などに役立つ、体力的な強さを鍛える。

- スポーツ競技のように体を動かして体験できる
- 災害時に活かせる防災の知恵と技を身体で覚える
- タイムトライアルで安全により速くを競う
- チーム戦でチームワーク・コミュニケーションを学ぶ



バケツリレー&シューティング
火災時の消火活動や、避難所の運営などに役立つ、チームワークを鍛える。



ゴーゴーキャリー
災害時の避難や、避難所の運営などに役立つ、体力的な強さを鍛える。



ウォーターレスキュー
水難時の救助や、避難所の運営などに役立つ、水泳の技術を鍛える。

災害時から災害後まで、様々な状況スポーツ競技化したプログラム

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 同社は、防リーグを学校、自治体、企業、商業施設等で展開することで、子どもから大人まで幅広い世代にスポーツを通した防災プログラムを体験し、防災意識を高めてもらう機会を作ってきた。
- 平成 30 年 10 月に開催された「豊洲 EXPO」では、親子を中心に、2 日間で 1,286 人が参加した。また、令和元年 7 月には、熊本県でサッカーの元日本代表選手と合同で防リーグを開催するなど、スポーツチームやアスリートとのコラボレーションによる企画の展開も進めている。

3 現状の課題・今後の展開等

- 平時における日常的な防災対策をどう促していくかが課題となっているため、同社は、IT の活用等も検討しながら、より効果的に防災対策に関する知識を高めることのできるプログラムの開発を進めたいと考えている。
- これまで、スポーツチームやアスリートが災害後に被災地支援に赴く例は多く見られたが、今後はスポーツチームやアスリートが防災活動を行うことで地域の防災、減災につなげていく「防災スポーツ」という文化を創造していきたいと考えている。
- また、スタジアム、アリーナといったスポーツ施設や、公園、体育館といった防災拠点となっている公共施設と、この防災スポーツを運動させ、防災力を高める活動を展開していきたいと考えている。



「防災スポーツ」の全体像

4 周囲の声

- 防災は大切なことでありながら、なにか難しくて面倒くさいものだと感じられている。日々の生活には他の楽しいことが多いので、防災について学ぶための時間を積極的に確保するのは難しい。この取組は、防災を楽しく学ぶという点でこれらの問題点を乗り越えようとしている。既に全国で多くの実績を作っていることから、今後も継続的に防災意識の向上に貢献していただきたい。(同取組がグッドデザイン賞 2019 を受賞した際の審査委員の評価)

担当者の声

- 災害や事故等により致命的な被害に遭わない「強さ」をスポーツから育めるよう、新たな防災学習プログラムとして、学校、地域、企業での展開を進め、「防災スポーツ」という文化を創り、災害の多い日本で、もしもの際に防災・減災につながる活動をしていきたいと思っています。

問合せ先

株式会社シンク 法人番号：9010001159719
TEL：03-6206-8947 FAX：03-6206-8192 E-Mail：bouspo@sinc-inc.co.jp

動画

